

学科名 (二級自動車工学科 1 年)

科目名	ビジネス教養	英文名	Business education					1-1
担当者	広瀬 繁		実務経験の有無	無	選択必修	必修	科目区分	一般科目・演習
開講期	通年	前期：1 時間（回数：16 回）		後期：1 時間（回数：16 回）			授業時数	32 時間
教材 教具	これだけは知っておきたい！面接対策&ビジネスマナー＜ウイネット＞ 就職筆記試験対策問題集 一般常識・SPI3＜ウイネット＞							

授業方法 (授業の進め方)	《通期》就職筆記試験対策問題集を基にして、解説と問題演習を中心に行う 指導用テキスト：就職筆記試験対策問題集（ウイネット）
到達目標	《前期》履歴書、エントリーシート、記述試験等に役立つ自己PRの文章を作成できること。 《後期》年度内の就職内定率70%以上を到達目標とする。
成績評価の方法と基準	《通期》（中間試験＋期末試験）/2×0.8＋出席態度点20点なお、出席率70%以上を単位認定とする。
授業時間以外に必要な学修	《通期》授業予定にあわせて、問題集・作文の反復による予習・復習を心掛けること
履修に当たっての留意点	《通期》授業態度点は、欠席、授業中の私語や居眠り、机上整理や言葉遣い、授業に取り組む積極的な姿勢があるかどうかなどの平素の行動を評価するものである。

学科名 (二級自動車工学科 1 年)

科目名	自動車工学 自動車の構造・性能①	英文名	Automotive Engineering Structure Performance				1・2
担当者	小川 栄二	実務経験 の有無	無	選択 必修	必修	科目 区分	専門科目・講義
開講期	通年	前期：2 時間（回数：32 回）	後期： 2 時間（回数：32 回）			授業時数	64 時間
教材教具	三級自動車整備士（総合）＜日本自動車整備振興会＞						
担当者の 実務経験	自動車ディーラーにて自動車整備						
【学修内容】科目のねらい（目的） 自動車の歴史、基礎原理・法則、各構成装置の仕組みを学ぶ。エンジン及びシャシの各構成部品の名称をはじめ、構造及び性能について、正しく理解する。							
【授業計画】 コマシラバス（前 期）			コマシラバス（後 期）				
1	自動車の概要 歴史、分類 構成		1	エンジン構成部品 タミングチェーン（ギヤ、ベルト）			
2	自動車の機械要素 ねじ、スプリング等		2	タペット、プッシュロッド			
3	基礎的な原理・法則		3	潤滑装置 オイルストレーナ、オイル・ポンプ			
4	熱、力、仕事とエネルギー、圧力と応力		4	トロコイド式、ギヤ式			
5	エンジン 原理、作動		5	潤滑装置 オイルフィルター、オイルパン			
6	燃焼、ノッキング、バルブ・タイミング		6	オイル・ギャラリ潤滑の流れ			
7	中間試験事前まとめ 単元テスト		7	●後期中間考査			
8	●前期中間試験		8	冷却装置 水冷式、空冷式			
9	4 サイクルエンジン、2 サイクルエンジン		9	ラジエータ、ウォータ・ポンプ			
10	吸入、圧縮、燃焼、排気		10	冷却装置 サーモスタット、ラジエータ・キャップ			
11	エンジン構成部品 シリンダヘッド、シリンダ・ブロック		11	ファン 冷却水			
12	ピストン、ピストンリング		12	吸排気装置 エア・クリーナ、インテークマニホールド			
13	単元まとめ		13	エキゾースト・マニホールド、マフラ			
14	エンジン構成部品 コンロッド、ベアリング		14	燃料装置 ガソリン・エンジン、ディーゼル・エンジン			
15	クランクシャフト、フライホイール		15	インジェクタ、フューエル・ポンプ			
16	エンジン構成部品 コンロッド、ベアリング		16	排出ガス浄化装置 CO、HC、NO _x			
17	クランクシャフト、フライホイール		17	後期まとめ 単元小テスト			
18	前期まとめ		18	●学年末考査			
19	単元小テスト						
20	前期末考査						
授業方法 (授業の進め方)		教科書を中心に BIG PAD を使用し、講義形式で行う。基本的には前回の復習からはじまり 本時の目標（狙い）及び本時のまとめへと展開する。状況に応じカット・モデルや各種サンプルなどを持ち込み、より具体的に説明する。					
到達目標		エンジン・シャシの各構成部品の名称 及び構造・性能について、三級自動車整備士レベルを到達目標とする。					
成績評価の方法と基準		通期 2 回ずつの中間・期末考査において テスト：80% 出席率：10% 授業態度：10% 以上 3 項目を合計し、100 点法で算出のうえ 60 点以上を認定とする。					
授業時間以外に必要な学修		《通期》授業予定にあわせて、問題集の反復による予習・復習を心掛けること。					
履修に当たっての留意点		《通期》授業態度点は、欠席、授業中の私語や居眠り、机上整理や言葉遣い、授業に取り組む積極的な姿勢があるかどうかなどの平素の行動を評価する。					

【令和7年度シラバス】

岡山科学技術専門学校

学科名（二級自動車工学科1年）

※授業の1単位時間は45分とする

科目名		自動車工学 自動車の構造・性能②		英文名		Automotive Engineering Structure Performance				1-3		
担当者		小川 栄二		実務経験 の有無		無		選択 必修	必修	科目 区分	専門科目・講義	
開講期		通年	前期：2 時間（回数：32 回）			後期： 2 時間（回数：32 回）				授業時数	64 時間	
教材教具		三級自動車整備士（総合）＜日本自動車整備振興会＞										
担当者の 実務経験		自動車ディーラーにて自動車整備										
【学修内容】科目のねらい（目的） 自動車の歴史、基礎原理・法則、各構成装置の仕組みを学ぶ。エンジン及びシャシの各構成部品の名称をはじめ、構造及び性能について、正しく理解する。												
【授業計画】 コマシラバス（前 期）						コマシラバス（後 期）						
1	シャシ 自動車の運動性能 走る、止まる、曲がる 動力伝達装置 クラッチ構成部品、操作機構			1	緩衝装置 ショックアブソーバ 構成部品、作動							
2	トランスミッション M/T 構成部品 シンクロ機構			2	サスペンションの種類（二輪車を含む）							
3	A/T トルク・コンバータ 変速機構 遊星歯車式			3	ステアリング装置 旋回時に発生する力							
4	駆動装置（二輪車）ファイナルギヤ及びディファレンシャル 差動の仕組み			4	種類、操作機構、構成部品							
5	単元小テスト			5	パワー・ステアリング							
6	●前期中間試験			6	油圧式、電動式							
7	CVT 油圧制御装置 二輪車トランスミッション			7	単元小テスト							
8	アクスル及びサスペンション 車軸懸架式、独立懸架式			8	●後期中間考査							
9	アクスル（二輪車を含む）			9	ホイール及びタイヤ 構造・機能 構成部品							
10	トランスファ、プロペラ・シャフト構成部品			10	タイヤサイズ							
11	ドライブ・シャフト ユニバーサル・ジョイント			11	ホイール・アライメント							
12	スプリング リーフスプリング、コイルスプリング			12	トーイン、キャンバ、キャスタ、SAI							
13	ステアリング装置 旋回時に発生する力			13	ブレーキ装置 ドラム・ブレーキ							
14	種類、操作機構、構成部品			14	ディスク・ブレーキ、パーキング・ブレーキ							
15	単元小テスト			15	制動倍力装置、ブレーキ液							
16	●前期末考査			16	ブレーキ装置 フル・エアブレーキ							
授業方法 （授業の進め方）		教科書を中心に BIG PAD を使用し、講義形式で行う。基本的には前回の復習からはじまり 本時の目標（狙い）及び本時のまとめへと展開する。状況に応じカット・モデルや各種サンプルなどを持ち込み、より具体的に説明する。										
到達目標		エンジン・シャシの各構成部品の名称 及び構造・性能について、三級自動車整備士レベルを到達目標とする。										
成績評価の 方法と基準		通期 2 回ずつの中間・期末考査において テスト：80％ 出席率：10％ 授業態度：10％以上 3 項目を合計し、100 点法で算出のうえ 60 点以上を認定とする。										
授業時間以外に必 要な学修		《通期》授業予定にあわせて、問題集の反復による予習・復習を心掛けること。										
履修に当たっての 留意点		《通期》授業態度点は、欠席、授業中の私語や居眠り、机上整理や言葉遣い、授業に取り組む積極的な姿勢があるかどうかなどの平素の行動を評価する。										

※授業の1単位時間は45分とする

科目名	自動車工学 力学、数学	英文名	Automotive Engineering (Dynamics Mathematic)				1-4
担当者	小川 栄二	実務経験 の有無	有	選択 必修	必修	科目 区分	専門科目・講義
開講期	前期	前期：2時間（回数：16回）		後期： 時間（回数： 回）		授業時数	32 時間
教材 教具	自動車整備士 計算の基礎と問題＜公論出版＞ 三級自動車整備士（総合）＜日本自動車整備振興会＞						
担当者の 実務 経験	自動車ディーラーにて自動車整備						
【学修内容】 科目の狙い（目的） ・各種計算問題など理論や公式を正しく理解し、答えを導き出せるよう指導する。							
【授業計画】 コマシラバス（前 期）				コマシラバス（後 期）			
1	S I 単位、基本単位と組立単位						
2	四則計算、分数の足し算、引き算、掛け算、割り算						
3	方程式、割合と比、比例式、時間と距離・速さ						
4	トルクと偶力、ばね定数、熱膨張						
5	直列回路、並列回路の合成抵抗計算						
6	オームの法則、電力量、電圧降下計算						
7	ギヤ比、遊星歯車計算						
8	まとめ 中間試験						
9	荷重割合						
10	等速運動（車速、平均ピストン速度等）						
11	等加速度運動						
12	前時間の復習（ $v-t$ 線図）						
13	自動車の諸元（排気量、圧縮比等）						
14	仕事と仕事率 自動車の走行抵抗、エンジン出力						
15	圧力、トルク（モーメント）、平行力の合成・分解						
16	各種計算問題 前期末試験						
授業方法 (授業の進め方)		教科書を中心に BIG PAD を使用し、講義形式で行う。項目ごとに前回の復習からはじまり 本時の目標 及び本時のまとめへと展開する。状況に応じ練習問題や課題プリントを取り入れ、より理解を深めるよう努める。					
到達目標		各項目における基礎・基本が理解できていること。 計算問題については、公式を正しく理解し、また応用力をもとに正しく答えが導きさせること。さらに單元ごとに小テストを行い、到達度 70%以上を目標とする。					
成績評価の方法と基準		中間・期末考査において テスト：80% 出席率：10% 授業態度：10%以上 3 項目を合計し、100 点法で算出のうえ 60 点以上を認定とする。					
授業時間以外に必要な学修		・自宅学習により当該科目の予習・復習を心掛ける。 ・課題やレポート等の提出は提出期日を厳守する。					
履修に当たっての留意点		授業態度点は、授業中の私語や居眠り、机上 整理や言葉遣い、積極的に関与する姿勢など平素の行動を評価するものである。 また、出席数は一種養成施設指定校としての基準を満たす必要がある。					

【令和7年度シラバス】

岡山科学技術専門学校

学科名（二級自動車工学科1年）

※授業の1単位時間は45分とする

科目名	自動車工学 電気・電子理論		英文名	Automotive Engineering (Electricity & electronic theory)				1-5
担当者	永岡 淳		実務経験 の有無	有	選択 必修	必修	科目 区分	専門科目・講義
開講期	前期	前期：2 時間（回数：16 回）		後期： 時間（回数： 回）			授業時数	32 時間
教材 教具	三級自動車整備士（総合）＜日本自動車整備振興会＞							
担当者の 実務経験	自動車ディーラーにて自動車整備							

【学修内容】科目の狙い（目的）

自動車工学における電気・電子の基礎を中心に電子制御回路など幅広く学び、新技術に対応できる基礎的な知識を身に付ける。

【授業計画】 コマシラバス（前 期）				コマシラバス（後 期）			
1	導入	小テストによるレベルチェック		1			
2	電気とは	電子・電流・電圧・電位差など		2			
3	電流の3作用	熱・化学・磁気・交流・直流など		3			
4	電気用図記号	部品特性と回路図		4			
5	オームの法則	計算式（電圧・電流・抵抗の関係）電圧降下 電力など		5			
6	半導体及びコンデンサ	働きとその特徴 種類など		6			
7	磁束及び磁界	電磁力及び電磁誘導 起電力など		7			
8	まとめ	前期中間試験		8			
9	バッテリー	極板の種類と特徴 構造及び機能など		9			
10	始動装置	スタータの構造及び機能 電磁力及び回路図など		10			
11	充電装置	オルタネータの構造及び機能 整流作用及び充電回路など		11			
12	点火装置	自己誘導作用及び相互誘導作用 マイコン制御		12			
13	電子制御装置の概要	吸入系統及び燃料系統		13			
14	灯火装置及び計器類	概要及び構造・機能		14			
15	安全装置及び空調システム			15			
16	まとめ	前期末試験		16			

授業方法 (授業の進め方)	教科書を中心にBIG PADを使用し、講義形式で行う。基本的には前回の復習からはじまり 本時の（狙い）及び本時のまとめへと展開する。状況に応じ カット・モデルや各種サンプルなどを持ち込み、より具体的に説明する。
到達目標	自動車工学における電気・電子理論及びその基礎知識について、三級自動車整備士レベルを到達目標とする。
成績評価の方法と基準	前期2回の中間・期末考査において テスト：80% 出席率：10% 授業態度：10%以上 3項目を合計し、100点法で算出のうえ 60点以上を認定とする。
授業時間以外に必要な学修	・自宅学習により当該科目の予習・復習を心掛ける。 ・課題やレポート等の提出は提出期日を厳守する。
履修に当たっての留意点	授業態度点は、授業中の私語や居眠り、机上 整理や言葉遣い、積極的に取り組む姿勢など平素の行動を評価するものである。 また、出席数は一種養成施設指定校としての基準を満たす必要がある。

学科名 (二級自動車工学科 1 年)

科目名	自動車工学 (材料、燃料、潤滑剤、図面)	英文名	Automotive Engineering (Material Fuel&Luburicant Drawing)				1-6	
担当者	小川 栄二	実務経験 の有無	有	選択 必修	必修	科目 区分	専門科目・講義	
開講期	後期	前期： 時間 (回数： 回)	後期：2 時間 (回数：16 回)				授業時数	32 時間
教材 教具	機械製図ワークノート＜実教出版＞ 三級自動車整備士（総合）＜日本自動車整備振興会＞ 二級自動車整備士（総合）＜日本自動車整備振興会＞抜粋							
担当者の 実務 経験	自動車ディーラーにて自動車整備							
【学修内容】 科目の狙い（目的） ・ JIS 規格及び機械分野の製図について、基礎的な知識と技術を身につける。 ・ 自動車の材料の分類、材料記号、機械的性質、熱処理、及び非鉄金属について正しく理解する。 ・ 燃料及び潤滑剤等の規格や性状について、基礎的な知識を身につける。								
【授業計画】 コマシラバス（前 期）			コマシラバス（後 期）					
			1	図面の重要性、J I S 規格、文字の練習				
			2	補助記号、線の種類・用途				
			3	線の練習（直線・円弧からなる図形）				
			4	用器画による平面図形の作図				
			5	第3角方による投影法の基礎				
			6	前回のつづき（問題練習）				
			7	等角図による品物の見取り図の練習				
			8	まとめ 前期中間試験				
			9	製作図の寸法記入、断面図示法				
			10	機械要素（ねじ等）の図示図				
			11	材料の分類、材料記号（J I S 規格）				
			12	鉄鋼の分類と用途				
			13	金属材料の機械的性質と試験機				
			14	熱処理法と性質の変化				
			15	非鉄金属材料の性質及び複合材				
			16	燃料、潤滑剤 まとめ 前期末試験				
授業方法 (授業の進め方)	教科書を中心に BIG PAD を使用し、講義形式で行う。項目ごとに前回の復習からはじまり 本時の目標 及び本時のまとめへと展開する。状況に応じ練習問題や課題プリントを取り入れ、より理解を深めるよう努める。							
到達目標	各項目における基礎・基本が理解できていること。また応用力をもとに正しく答えが導きさせること。さらに単元ごとに小テストを行い、到達度 70%以上を目標とする。製図においては平面図から投影図を起こすことが出来る。							
成績評価の 方法と基準	中間・期末考査において テスト：80% 出席率：10% 授業態度：10%以上 3 項目を合計し、100 点法で算出のうえ 60 点以上を認定とする。							
授業時間以外に 必要な学修	・ 自宅学習により当該科目の予習・復習を心掛ける。 ・ 課題やレポート等の提出は提出期日を厳守する。							
履修に当たって の留意点	授業態度点は、授業中の私語や居眠り、机上 整理や言葉遣い、積極的に取り組む姿勢など平素の行動を評価するものである。 また、出席数は一種養成施設指定校としての基準を満たす必要がある。							

学科名 (二級自動車工学科 1 年)

科目名	自動車整備関連 (エンジン又はモータ)	英文名	Automobile maintenance related (Engine or motor)				1-7
担当者	広瀬 繁	実務経験 の有無	有	選択 必修	必修	科目 区分	専門知識・講義
開講期	前期	前期：2 時間（回数：16 回）	後期：	時間（回数：	回）	授業 時数	32 時間
教材 教具	三級自動車整備士（総合）＜日本自動車整備振興会＞						
担当者 の実務 経験	自動車ディーラーにて自動車整備						
【学修内容】科目のねらい（目的） エンジン整備における、各項目の分解・点検・組付け方法など具体的に説明し、故障探求や良否判定及び整備の方法について、正しく理解する。							
【授業計画】 コマシラバス（前 期）			コマシラバス（後 期）				
1	エンジン本体整備① P. 72		1				
2	エンジン本体整備② P. 77		2				
3	潤滑装置 P. 91		3				
4	冷却装置 P. 98		4				
5	吸排気装置 P. 104		5				
6	燃料装置 P. 110		6				
7	前期中間試験		7				
8	エンジン電気装置 P. 143		8				
9	始動装置 P. 147		9				
10	充電装置 P. 151		10				
11	点火装置 P. 157		11				
12	予熱装置 P. 159		12				
13	点検・整備 P. 341(1 概要、点検・整備①)		13				
14	点検整備②		14				
15	点検整備③		15				
16	前期期末試験		16				
授業方法 (授業の進め方)	教科書を中心に BIG PAD を使用し、講義形式で行う。基本的には前回の復習からはじまり 本時の目標（狙い）及び本時のまとめへと展開する。状況に応じ カット・モデルや各種サンプルなどを持ち込み、より具体的に説明する。						
到達目標	エンジン又はモータの各構成部品の名称 及び点検・整備について、三級自動車整備士レベルを到達目標とする。						
成績評価の方法と基準	前期 2 回の中間・期末考査において テスト：80% 出席率：10% 授業態度：10% 以上 3 項目を合計し、100 点法で算出のうえ 60 点以上を認定とする。						
授業時間以外に必要な学修	・自宅学習により当該科目の予習・復習を心掛ける。 ・課題やレポート等の提出は提出期日を厳守する。						
履修に当たっての留意点	授業態度点は、授業中の私語や居眠り、机上 整理や言葉遣い、積極的に取り組む姿勢など平素の行動を評価するものである。 また、出席数は一種養成施設指定校としての基準を満たす必要がある。						

学科名 (二級自動車工学科 1 年)

科目名	自動車整備関連（シャシ）	英文名	Automobile maintenance related (Chassis)				1-8
担当者	小川 栄二	実務経験 の有無	有	選択 必修	必修	科目 区分	専門科目・講義
開講期	前期	前期：2 時間（回数：16 回）	後期： 時間（回数： 回）			授業時数	32 時間
教材 教具	三級自動車整備士（総合）＜日本自動車整備振興会＞						
担当者 の実務 経験	自動車ディーラーにて自動車整備						
【学修内容】 科目の狙い（目的） シャシ整備の各項目における分解・点検・組付け方法など具体的に説明し、良否の判定及び整備の方法について、正しく理解する。							
【授業計画】 コマシラバス（前 期）			コマシラバス（後 期）				
1	動力伝達装置 分解・点検・調整方法		1				
2	アクスル及びサスペンション		2				
3	車軸懸架・独立懸架・スプリングの分解・点検		3				
4	ステアリング装置		4				
5	ステアリングの種類・点検・調整・分解方法		5				
6	ホイール及びタイヤ		6				
7	タイヤ・ホイールの種類、整備点検・調整・整備方法		7				
8	後期中間試験		8				
9	ホイール・アライメント		9				
10	トー・キャンバ・キャスタ調整・整備方法		10				
11	ブレーキ装置		11				
12	フート・ブレーキ装置の点検と調整及び整備		12				
13	フレーム及びボデー自動車の分類と部位名		13				
14	シャシの点検・整備		14				
15	不具合現象と点検・調整方法		15				
16	学年末試験		16				
授業方法 (授業の進め方)	教科書を中心に BIG PAD を使用し、講義形式で行う。基本的には前回の復習からはじまり 本時の目標 及び本時のまとめへと展開する。状況に応じ練習問題や課題プリントを取り入れ、より理解を深めるよう努める。						
到達目標	自動車シャシの各項目における分解・点検・組付け及び故障探求の方法について三級自動車整備士レベルを到達目標とする。						
成績評価の方法と基準	中間・期末考査において テスト：80% 出席率：10% 授業態度：10%以上 3 項目を合計し、100 点法で算出のうえ 60 点以上を認定とする。						
授業時間以外に必要な学修	・自宅学習により当該科目の予習・復習を心掛ける。 ・課題やレポート等の提出は提出期日を厳守する。						
履修に当たっての留意点	授業態度点は、授業中の私語や居眠り、机上 整理や言葉遣い、積極的に取り組む姿勢など平素の行動を評価するものである。 また、出席率は一種養成施設指定校としての基準を満たす必要がある。						

【令和7年度シラバス】

岡山科学技術専門学校

学科名（二級自動車工学科1年）

※授業の1単位時間は45分とする

科目名	自動車整備関連（電装）		英文名	Automotive Engineering (Electrical Components)				1-9
担当者	永岡 淳		実務経験 の有無	有	選択 必修	必修	科目 区分	専門科目・講義
開講期	後期	前期： 時間（回数： 回）		後期：2時間（回数：16回）			授業時数	32 時間
教材 教具	三級自動車整備士（総合）＜日本自動車整備振興会＞							
担当者 の実務 経験	自動車ディーラーにて自動車整備							
【学修内容】 科目の狙い（目的） 自動車電装品の各項目における分解・点検・組付け及び測定方法など具体的に説明し、良否の判定さらに整備の方法について、正しく理解する。								
【授業計画】 コマシラバス（前 期）				コマシラバス（後 期）				
1				1	バッテリー 液量・比重・容量 取り扱い上の注意など			
2				2	〃 充・放電 充電方法（定電流・定電圧） ブースタ・ケーブルの接続方法）			
3				3	始動装置 車上点検及び良否判定			
4				4	〃 脱着方法及び分解組付け			
5				5	充電装置 車上点検及び良否判定			
6				6	〃 脱着方法及び分解組付け			
7				7	点火装置 イグニッション・コイルの点検			
8				8	後期中間試験			
9				9	点火装置 スパーク・プラグの点検			
10				10	スパーク・プラグの焼け具合、ギャップ			
11				11	予熱装置 グロープラグの点検			
12				12	灯火装置 ライト・スイッチ 各種メータの点検			
13				13	計器類の整備 スピードメータ、タコメータ、各ゲージ類			
14				14	冷暖房装置の整備			
15				15	ホーン、ワイパ、ウインドシールド・ウォッシャの整備			
16				16	学年末試験			
授業方法 (授業の進め方)		教科書を中心に BIG PAD 等を使用し、講義形式で行う。基本的には前回の復習からはじまり 本時の目標 及び本時のまとめへと展開する。また練習問題や課題プリントを取り入れ、より理解を深めるよう努める。						
到達目標		自動車用 電装品における分解・点検・組付け及び故障探求の方法について、三級自動車整備士レベルを到達目標とする。						
成績評価の方法と基準		中間・期末考查において テスト：80％ 出席率：10％ 授業態度：10％以上 3 項目を合計し、100 点法で算出のうえ 60 点以上を認定とする。						
授業時間以外に必要な学修		・ 自宅学習により当該科目の予習・復習を心掛ける。 ・ 課題やレポート等の提出は提出期日を厳守する。						
履修に当たっての留意点		授業態度点は、授業中の私語や居眠り、机上 整理や言葉遣い、積極的に取り組む姿勢など平素の行動を評価するものである。 また、出席数は一種養成施設指定校としての基準を満たす必要がある。						

学科名 (二級自動車工学科 1 年)

科目名	自動車整備関連 (故障探究)	英文名	Automotive Engineering (Trouble shooting)				1-10
担当者	小川 栄二	実務経験 の有無	有	選択 必修	必修	科目 区分	専門科目・講義
開講期	前期	前期： 時間 (回数： 回)	後期： 2 時間 (回数：16 回)			授業時数	32 時間
教材 教具	三級自動車整備士 (総合) <日本自動車整備振興会>						
担当者の実 務経験	自動車ディーラーにて自動車整備						
【学修内容】 科目の狙い (目的) 自動車整備作業における故障探究フローチャートなど基礎知識を学び、正しく理解する。							
【授業計画】 コマシラバス (前 期)			コマシラバス (後 期)				
1			1	エンジン点検・整備の概要 3要素について、エンジンオイル、冷却水点検			
2			2	各補機ベルト点検、エア・クリーナ点検 フューエル・フィルター、バッテリー点検			
3			3	予熱装置点検、バルブ・クリアランス測定・調整			
4			4	圧縮圧力点検、フューエル・ポンプ点検 スパーク・プラグ点検、点火時期の点検			
5			5	排気の状態 CO HC NOx 黒煙測定器			
6			6	エンジン始動状態の点検			
7			7	低速加速状態の点検 充電状態の点検			
8			8	電気配線の点検、排出ガス浄化装置の点検			
9			9	エキゾースト・パイプ及びマフラの点検			
10			10	●中間考査			
11			11	シャシ関連点検 クラッチ (切れ、つながり、滑り)、遊び、切れた時の床板とのすき間			
12			12	クラッチ液の量及び漏れ、エアの混入			
13			13	二輪車クラッチ・レバー			
14			14	トランスミッションの点検、オイル漏れ及び量			
15			15	オートマチック・トランスミッション、二輪車			
16			16	プロペラ・シャフト、ドライブ・シャフト			
				ユニバーサル・ジョイントの点検			
				ディファレンシャルの点検			
				チェーン、スプロケット及びドライブ・ベルト			
				ショックアブソーバの点検、ステアリング装置の点検、フロント・フォークの点検 (二輪車)			
				タイヤ、ホイールナット (JIS, ISO) ブレーキの点検、引きずり、ブレーキ調整、			
				●前期末考査			
授業方法 (授業の進め方)		教科書を中心に BIG PAD を使用し、講義形式で行う。基本的には前回の復習からはじまり 本時の目標 及び本時のまとめへと展開する。状況に応じ練習問題や課題プリントを取り入れ、より理解を深めるよう努める。					
到達目標		各種機器の構造取扱いにおける基礎知識や使用方法等について、三級自動車整備士レベルを到達目標とする。					
成績評価の方法と基準		中間考査・期末考査においてテスト：80% 出席率：10% 授業態度：10%以上 3項目を合計し、100点法で算出のうえ 60点以上を認定とする。					
授業時間以外に必要な学修		・自宅学習により当該科目の予習・復習を心掛ける。 ・課題やレポート等の提出は提出期日を厳守する。					
履修に当たっての留意点		授業態度点は、授業中の私語や居眠り、机上 整理や言葉遣い、積極的に取り組む姿勢など平素の行動を評価するものである。また、出席数は一種養成施設指定校としての基準を満たす必要がある。					

学科名 (二級自動車工学科 1 年)

科目名	自動車整備関連 (電子制御装置)	英文名	Automobile maintenance related (Electrical components)				1-11
担当者	広瀬 繁	実務経験 の有無	有	選択 必修	必修	科目 区分	専門知識・講義
開講期	後 期	前期： 時間 (回数： 回)	後期：2 時間 (回数：16 回)			授業時数	32 時間
教材 教具	三級自動車整備士 (総合) <岡山自動車整備振興会>						
担当者の 実務経験	自動車ディーラーにて自動車整備						
【学修内容】科目のねらい (目的) 電子制御装置における、各項目の分解・点検・組付け方法など具体的に説明し、整備の方法について、正しく理解することを目的とする。							
【授業計画】 コマシラバス (前 期)			コマシラバス (後 期)				
1		1	「ガソリン・エンジン」概要 構造・機能 P.113				
2		2	1)燃料系統 P.115				
3		3	2)吸気系統 P.115				
4		4	3)点火系統 P.117				
5		5	4)制御系統 P.118				
6		6	整備 1) 吸気系統 P.121				
7		7	2)燃料系統 P.122				
8		8	3)制御系統 P.122				
9		9	電子制御装置「ジーゼル・エンジン(コモンレール式高圧燃料噴射装置)」 P.124 概要 P.124				
10		10	構造・機能 P.125 1) サプライ・ポンプ P.125				
11		11	後期中間試験				
12		12	2)コモンレール P.126				
13		13	3)インジェクタ P.127				
14		14	4)センサ P.128				
15		15	整備 P.128				
		16	1)整備上の全般的な注意事項				
			2)インジェクタ補正值登録				
			学年末試験				
授業方法 (授業の進め 方)	教科書を中心に BIG PAD を使用し、講義形式で行う。基本的には前回の復習からはじまり 本時の目標 (狙い) 及び本時のまとめへと展開する。状況に応じ カット・モデルや各種サンプルなどを持ち込み、より具体的に説明する。						
到達目標	エンジン又はモータの各構成部品の名称 及び点検・整備について、三級自動車整備士レベルを到達目標とする。						
成績評価の 方法と基準	中間・期末考査において テスト：80% 出席率：10% 授業態度：10%以上 3 項目を合計し、100 点法で算出のうえ 60 点以上を認定とする。						
授業時間以外 に必要な学修	・ 自宅学習により当該科目の予習・復習を心掛ける。 ・ 課題やレポート等の提出は提出期日を厳守する。						
履修に当たっ ての留意点	授業態度点は、授業中の私語や居眠り、机上 整理や言葉遣い、積極的に取り組む姿勢など平素の行動を評価するものである。 また、出席数は一種養成施設指定校としての基準を満たす必要がある。						

学科名 (二級自動車工学科 1 年)

科目名	自動車整備作業		英文名	Automobile maintenance Practical training				1-12
担当者	広瀬 繁 永岡 淳 小林 治行		実務経験 の有無	有	選択 必修	必修	科目 区分	専門知識・講義
開講期	通期	前期：20 時間（回数：17.6 回）	後期：20 時間（回数：17.6 回）				授業時数	704 時間
教材 教具	三級自動車整備士（総合）＜岡山自動車整備振興会＞ 基礎自動車整備作業＜岡山自動車整備振興会＞							
担当者の 実務経験	自動車ディーラーにて自動車整備							
【学修内容】科目のねらい（目的） 自動車整備における、各項目の分解・点検・組付け方法など具体的に説明し、故障探求や良否判定及び整備の方法について、正しく理解することを目的とする。								
【授業計画】 コマシラバス（前 期）				コマシラバス（後 期）				
1	けがき・タップ(8mm)立て用の穴あけ、けがき線上を切断作業／タップ立て用の穴あけ、切断作業とタップ立て、やすり・ペーパー等使用し荒仕上げ、荒仕上げ⇒仕上げ、仕上げ 完成品の提出（提出物で評価）			1	緩衝装置ストラット分解組付け 1			
2	基礎作業（工具）、測定作業（測定機器）、点検作業（テスト類）、充電作業（クイックチャージャ）、特殊工具（SST）、昇降作業（各種リフト、検査機器）、外部診断機			2	ステアリング装置（ラック&ピニオン・ボールナット）分解組付け 1			
3	エンジン実習（ガソリン）吸気・潤滑・冷却・燃料・排気・始動・充電・点火装置分解組み付け			3	緩衝装置ストラット分解組付け 1			
4	エンジン実習（ガソリン）吸気・潤滑・冷却・燃料・排気・始動・充電・点火装置分解組み付け			4	ステアリング装置（ラック&ピニオン・ボールナット）分解組付け 1			
5	エンジン実習（ガソリン）吸気・潤滑・冷却・燃料・排気・始動・充電・点火装置分解組み付け			5	タイヤ組替 動力伝達装置クラッチ分解組付け 1			
6	エンジン実習（ベンチ・エンジン）ガソリン・ジーゼル分解組み付け			6	電気装置 バッテリー（電気回路点検）			
7	エンジン実習（ベンチ・エンジン）ガソリン・ジーゼル分解組み付け			7	電気装置スタータ・オルタネータ分解組付け			
8	エンジン実習（ベンチ・エンジン）ガソリン・ジーゼル分解組み付け			8	電子制御装置エンジン 1			
9	エンジン実習（ベンチ・エンジン）ガソリン・ジーゼル分解組み付け			9	二輪車整備 エンジン・サスペンション 動力伝達装置・走行装置・電気装置 1			
10	エンジン実習（ベンチ・エンジン）ガソリン・ジーゼル分解組み付け			10	実習車エンジン・足廻り・下廻り・動力伝達装置・電気装置点検整備 2			
11	制動装置 ディスクブレーキ・ドラムブレーキ等分解・組付け			11	実習車エンジン・足廻り・下廻り・動力伝達装置・電気装置点検整備 3			
12	動力伝達装置 トランスミッション分解組付け			12	自動車定期点検整備 日常点検・6 か月点検概要説明			
13	動力伝達装置 トランスミッション分解組付け			13	自動車定期点検整備 12 か月点検整備、概要説明			
14	動力伝達装置デファレンシャル・ドライブシャフト分解組付け			14	1 2 か月点検整備（スパークプラグ・補機ベルト脱着）			
15	日常点検、法定点検			15	1 2 か月点検整備（バンパー・ヘッドライト・テール脱着）			
16	日常点検、法定点検			16	1 2 か月点検整備（ブレーキパッド・ブレーキシュー脱着）			
17	エンジン実習総括 前期末実習実技試験			17	学年末実習実技試験（エンジン・シャシ・電装）			
18	前期まとめ			18	後期まとめ			
授業方法 （授業の進め方）		授業始まりは全体でミーティングを行い、その後 2 組に分かれて各々実施する。グループ学習を基本に作業は学生主導で行い担当教員が随時巡回指導を行う。ここでは単体作業を中心に各構成部品の名称や構造・機能及び作動をより具体的に学ぶ。						
到達目標		各セッションにおいて、単元終了時に小テストや実技試験を行い、到達度 70%以上を目指す。さらに、実技において三級自動車整備士レベルを到達目標とする。						
成績評価の方法と基準		前・後期 1 回ずつの期末考査にて 実技試験：70%（※二輪車整備を含む）出席率：15% 実習態度：15%、以上 3 項目を合計し 100 点法で算出のうえ 60 点以上を認定とする。						
授業時間以外に必要な学修		課題やレポート等の提出は提出期日を厳守する。						
履修に当たっての留意点		自動車（実習車）や工具を大切に扱う基本動作を学ぶ。出席時数において、一種養成施設指定校としての基準を満たしていることが必要である。						

【令和7年度シラバス】

岡山科学技術専門学校

学科名（二級自動車工学科2年）

※授業の1単位時間は45分とする

科目名	一般教養		英文名	General education				2-1
担当者	中崎 太		実務経験の有無	有	選択必修	必修	科目区分	一般科目・演習
開講期	前期	前期：1 時間（回数：16 回）		後期： 1 時間（回数：16 回）			授業時数	32 時間
教材 教具	これだけは知っておきたい！面接対策&ビジネスマナー＜ウイネット＞ 自動車整備士の法令教本＜公論出版＞ 自動車整備士計算の基礎と問題＜公論出版＞							

【学修内容】科目の狙い（目的）

社会人としての心構えとして職場での6Sについて学習する。また職場でのコミュニケーション及び接客業務について学習する。さらに資格対策の一環として後期は計算問題と法令問題に取り組む。

【授業計画】 コマシラバス（前 期）		コマシラバス（後 期）	
1	新入社員の仕事について	1	取り次ぎの仕方
2	仕事に取り組む心構え、身だしなみ	2	面会を断る場合
3	自動車業界の動向について	3	案内の要領 エレベータ、応接室の席次
4	指示の受け方・報告の仕方	4	お茶の出し方 見送り
5	職場の人間関係	5	電話応対 電話の特性
6	基本動作 立つ姿勢 お辞儀	6	電話の受け方 伝言メモの作成
7	椅子の立ち座り 歩き方 表情	7	電話による苦情対応
8	話の仕方 話の聞き方	8	電話のかけ方 携帯電話、Eメール
9	あいさつ&言葉づかい	9	訪問のマナー 交通手段に関する知識
10	敬語の基本 間違いやすい敬語	10	受付、応接室でのマナー、名刺交換
11	接遇とは 接遇の目的	11	資格対策（スケジュール及び進め方）両免申請について
12	受付応対1	12	資格対策（計算問題）
13	受付応対2	13	資格対策（計算問題）
14	名刺の出し方、取り扱い	14	資格対策（法令：車両法）
15	ロールプレイング	15	資格対策（法令：保安基準）
16	まとめ 単元終了テスト	16	まとめ 単元終了テスト

授業方法 (授業の進め方)	基本的にはグループ学習とし、接遇についてはロールプレイング等を取入れ実践的に行う。また資格対策においては、学科授業の補助として 計算問題と法令問題を中心に実施する。
到達目標	《前期》 接遇において、社会人としての心構え、マナーを一通り説明できること。 《後期》 資格対策において、各練習問題の正答率70%以上を到達目標とする。
成績評価の方法と基準	前・後期の各単元終了試験において テスト：80% 出席率：10% 授業態度：10%以上3項目を合計し、100点法で算出のうえ 60点以上を認定とする。なお、出席率70%以上を単位認定とする。
授業時間以外に必要な学修	資格対策において、正答率が著しく低い場合は、状況に応じ 課題プリントの提出若しくは放課後自主学習を行う場合がある。
履修に当たっての留意点	授業態度点は欠席、授業中の私語や居眠り、机上整理や言葉遣い、授業に取り組む積極的な姿勢など 平素の行動を評価する。

【令和7年度シラバス】

岡山科学技術専門学校

学科名 (二級自動車工学科 2 年)

※授業の1単位時間は45分とする

科目名	自動車整備作業		英文名	Automobile maintenance Practical training				2-2	
担当者	中崎 太・田中 滋機		実務経験 の有無	有	選択 必修	必修	科目 区分	専門科目・実習	
開講期	通年	前期：20 時間（回数：16.5 回）		後期：20 時間（回数：16.5 回）			授業時 数	660 時間	
教材 教具	二級ガソリン自動車エンジン編＜日本自動車整備振興会＞ 二級ジーゼル自動車エンジン編＜日本自動車整備振興会＞ 二級自動車シャシ＜日本自動車整備振興会＞								
担当者の 実務 経験	中崎 太 ：自動車ディーラーにて自動車整備 田中 滋機 ：自動車ディーラーにて自動車整備								

【学修内容】 科目の狙い（目的）

安全作業を基本に実車等を使用し実践的な作業を行うことで即戦力・応用力の育成を目指す。作業手順やその方法など正しく理解し最も効率の良い方法を具体的に学ぶ。さらに検査実習では検査機器による検査や良否判定及び指定整備記録簿の書き方など、より具体的に学ぶ。

【授業計画】 コマシラバス (前 期)		コマシラバス (後 期)	
1	走行装置・A/T、エア油圧ブレーキ・制動倍力装置 1	1	エンジン故障探求・ハイブリッド、シャシ・電装品故障探求 1
2	走行装置・A/T、エア油圧ブレーキ・制動倍力装置 2	2	エンジン故障探求・ハイブリッド、シャシ・電装品故障探求 2
3	走行装置・A/T、エア油圧ブレーキ・制動倍力装置 3	3	エンジン故障探求・ハイブリッド、シャシ・電装品故障探求 3
4	走行装置・A/T、エア油圧ブレーキ・制動倍力装置 4	4	エンジン故障探求・ハイブリッド、シャシ・電装品故障探求 4
5	走行装置・A/T、エア油圧ブレーキ・制動倍力装置 5	5	エンジン故障探求・ハイブリッド、シャシ・電装品故障探求 5
6	走行装置・A/T、エア油圧ブレーキ・制動倍力装置 6	6	エンジン故障探求・ハイブリッド、シャシ・電装品故障探求 6
7	走行装置・A/T、エア油圧ブレーキ・制動倍力装置 7	7	エンジン故障探求・ハイブリッド、シャシ・電装品故障探求 7
8	走行装置・A/T、エア油圧ブレーキ・制動倍力装置 8	8	エンジン故障探求・ハイブリッド、シャシ・電装品故障探求 8
9	走行装置・A/T、エア油圧ブレーキ・制動倍力装置 9	9	合同実習 学年末実習実技試験
10	懸架装置、操舵装置、電装品、内装関係 1	10	シャシ故障探求 その他の電装品 (ETC カー・ナビゲーション) 1
11	懸架装置、操舵装置、電装品、内装関係 2	11	シャシ故障探求 その他の電装品 (ETC カー・ナビゲーション) 2
12	懸架装置、操舵装置、電装品、内装関係 3	12	シャシ故障探求 その他の電装品 (ETC カー・ナビゲーション) 3
13	懸架装置、操舵装置、電装品、内装関係 4	13	シャシ故障探求 その他の電装品 (ETC カー・ナビゲーション) 4
14	懸架装置、操舵装置、電装品、内装関係 5	14	電装故障探究、電子制御羽装置故障探究 1
15	懸架装置、操舵装置、電装品、内装関係 6	15	電装故障探究、電子制御羽装置故障探究 2
16	懸架装置、操舵装置、電装品、内装関係 7	16	電装故障探究、電子制御羽装置故障探究 3
17	懸架装置、操舵装置、電装品、内装関係 8 前期末実習実技試験	17	合同実習 学年末実習実技試験

授業方法 (授業の進め方)	授業始まりは全体ミーティングを行い、その後 2 組に分かれて実施する。現車作業を中心にグループ形式にて各種脱着作業から点検・整備及び故障探求の方法など、より具体的に学ぶ。
到達目標	各セッションにおいて、単元終了時に小テストや実技試験を行い、到達度 70%以上を目標とする。なお、現車作業において二級自動車整備士レベルを到達目標としている。
成績評価の方法と基準	単元毎に試験を行い、中間・期末考査に反映させ、実習実技試験：70% 出席率：15% 実習態度：15%以上 3 項目を合計し 100 点法で算出のうえ 60 点以上を認定とする。
授業時間以外に必要な学修	課題やレポート等の提出は提出期日を厳守する。
履修に当たっての留意点	履修に当たっては出席時数において、一種養成施設指定校としての基準を満たしていることが必要である。

【令和7年度シラバス】

岡山科学技術専門学校

学科名 (二級自動車工学科 2 年)

※授業の1単位時間は45分とする

科目名	自動車検査作業	英文名	Automobile inspection Practical training				2・3
担当者	中崎 太・田中 滋機	実務経験 の有無	有	選択 必修	必修	科目 区分	専門科目・実習
開講期	後期	前期： 時間（回数： 回）	後期：20 時間（回数：3 回）				授業時数 60 時間
教材 教具	自動車検査用機械器具の構造と取扱＜日本自動車機械工具協会＞ 法令教本＜公論出版＞						
担当者の 実務 経験	中崎 太 ：自動車ディーラーにて自動車整備 田中 滋機 ：自動車ディーラーにて自動車整備						
【学修内容】科目の狙い（目的） 定期点検及び車検整備について、実践的に学習する。また検査機器を使用し検査を行うことで当該車両が保安基準に適合するかの判断ができ、さらに点検記録簿や指定整備記録簿等の書き方も含め総合的に学習し即戦力を目指す。							
【授業計画】 コマシラバス（前 期）			コマシラバス（後 期）				
1			1	定期点検・車検整備及び検査機器による検査 1			
2			2	定期点検・車検整備及び検査機器による検査 2			
3			3	検査機器による検査 科目終了テスト			
4							
5							
6							
7							
8							
9							
10							
11							
12							
13							
14							
15							
授業方法 （授業の進め方）	授業始まりは全体ミーティングを行い、その後 2 組に分かれて実施する。現車作業を中心にグループ形式にて各車両の定期点検や車検整備を実施し検査機器による検査及び良否の判定 指定整備記録簿の書き方等について指導する。						
到達目標	科目終了に小テスト（実技試験等）を行い、到達度 70%以上を目標とする。なお、現車作業において二級自動車整備士レベルを到達目標としている。						
成績評価の方法と基準	科目終了テストにおいて 実技試験：70% 出席率：15% 実習態度：15% 以上 3 項目を合計し 100 点法で算出のうえ 60 点以上を認定とする。						
授業時間以外に必要な学修	課題やレポート等の提出は提出期日を厳守する。						
履修に当たっての留意点	履修に当たっては出席時数において、一種養成施設指定校としての基準を満たしていることが必要である。						

【令和7年度シラバス】

岡山科学技術専門学校

学科名 (二級自動車工学科 2 年)

※授業の1単位時間は45分とする

科目名	自動車工学 構造性能 (ガソリン)	英文名	Automotive Engineering Structure Performance				2-4
担当者	小川 栄二	実務経験 の有無	有	選択 必修	必修	科目 区分	専門科目・講義
開講期	通年	前期：2 時間（回数：16 回）	後期： 時間（回数： 回）			授業時数	32 時間
教材 教具	二級ガソリン自動車 エンジン編＜日本自動車整備振興会連合会＞						
担当者 の実務 経験	自動車ディーラーにて自動車整備						
【学修内容】 科目の狙い（目的） エンジンの各構成部品の名称をはじめ構造及び性能について、正しく理解する。							
【授業計画】 コマシラバス（前 期）				コマシラバス（後 期）			
1	燃焼方式の説明	1					
2	バルブ・タイミングの説明	2					
3	ガソリン・エンジンの性能の説明	3					
4	排ガス対策、ノッキングの説明	4					
5	エンジン本体 エンジン本体の説明	5					
6	エンジン本体 バルブ機構の説明	6					
7	エンジン本体 可変バルブ・タイミング機構の説明	7					
8	前期中間試験	8					
9	潤滑装置 オイルの循環・冷却、油圧の制御の説明	9					
10	冷却装置 構造・機能、電動ファンの説明	10					
11	燃料装置 構造・機能、電子制御式 LPG 燃料装置の説明	11					
12	電子制御装置 燃料噴射制御の説明	12					
13	電子制御装置 燃料噴射制御の説明	13					
14	吸排気装置 過給機、可変吸気装置の説明	14					
15	電気装置 点火装置の説明	15					
16	前期末試験	16					
授業方法 (授業の進め方)	教科書を中心に BIG PAD を使用し、講義形式で行う。基本的には前回の復習からはじまり 本時の（狙い）及び本時のまとめへと展開する。状況に応じ カット・モデルや各種サンプルなどを持ち込み、より具体的に説明する。						
到達目標	二級自動車整備士の技能登録試験 合格レベルを到達目標とする。						
成績評価の方法と基準	中間・期末考查において テスト：80% 出席率：10%授業態度：10%以上 3 項目を合計し、100 点法で算出のうえ 60 点以上を認定とする。						
授業時間以外に必要な学修	・自宅学習により当該科目の予習・復習を心掛ける。 ・課題やレポート等の提出は提出期日を厳守する。						
履修に当たっての留意点	授業態度点は、授業中の私語や居眠り、机上 整理や言葉遣い、積極的に取り組む姿勢など平素の行動を評価するものである。 また、出席数は一種養成施設指定校としての基準を満たす必要がある。						

【令和7年度シラバス】

岡山科学技術専門学校

学科名 (二級自動車工学科 2 年)

※授業の1単位時間は45分とする

科目名	自動車工学 構造性能 (ジーゼル)		英文名	Automotive Engineering Structure Performance				2-5
担当者	小川 栄二		実務経験 の有無	有	選択 必修	必修	科目 区分	専門科目・講義
開講期	通年	前期：2 時間（回数：16 回）		後期： 時間（回数： 回）			授業時数	32 時間
教材 教具	二級ジーゼル自動車 エンジン編＜日本自動車整備振興会連合会＞							
担当者の 実務 経験	自動車ディーラーにて自動車整備							
【学修内容】 科目の狙い（目的） エンジンの各構成部品の名称をはじめ構造及び性能について、正しく理解する。								
【授業計画】 コマシラバス（前 期）				コマシラバス（後 期）				
1	燃焼方式の説明							
2	バルブ・タイミングの説明							
3	ジーゼル・エンジンの性能の説明							
4	排ガス対策、ジーゼル・ノックの説明							
5	酸化触媒、DPF 等の説明							
6	コモンレール式高圧燃料噴射システムの説明							
7	エンジン本体 エンジン本体の説明							
8	エンジン本体まとめ 前期中間試験							
9	潤滑装置 オイルの循環・冷却、油圧の制御の説明							
10	冷却装置 構造、機能、ファン・クラッチ、電動ファンの説明							
11	燃料装置 列型インジェクション・ポンプの説明							
12	燃料装置 分配型インジェクション・ポンプの説明							
13	電子制御式インジェクション・ポンプ 電子制御式インジェクション・ポンプの説明							
14	電子制御式インジェクション・ポンプ 電子制御式インジェクション・ポンプの説明							
15	吸排気装置 ターボ・チャージャ、慣性過給装置の説明							
16	まとめ 前期末試験							
授業方法 (授業の進め方)		教科書を中心に BIG PAD を使用し、講義形式で行う。基本的には前回の復習からはじまり 本時の（狙い）及び本時のまとめへと展開する。状況に応じ カット・モデルや各種サンプルなどを持ち込み、より具体的に説明する。						
到達目標		二級自動車整備士の技能登録試験 合格レベルを到達目標とする。						
成績評価の方法と基準		中間・期末考查において テスト：80% 出席率：10% 授業態度：10%以上 3 項目を合計し、100 点法で算出のうえ 60 点以上を認定とする。						
授業時間以外に必要な学修		・自宅学習により当該科目の予習・復習を心掛ける。 ・課題やレポート等の提出は提出期日を厳守する。						
履修に当たっての留意点		授業態度点は、授業中の私語や居眠り、机上 整理や言葉遣い、積極的に取り組む姿勢など平素の行動を評価するものである。 また、出席数は一種養成施設指定校としての基準を満たす必要がある。						

【令和7年度シラバス】

岡山科学技術専門学校

学科名 (二級自動車工学科 2 年)

※授業の1単位時間は45分とする

科目名	自動車工学 構造性能 (シャシ)	英文名	Automotive Engineering Structure Performance				2-6
担当者	小川 栄二	実務経験 の有無	有	選択 必修	必修	科目 区分	専門科目・講義
開講期	前期	前期：4 時間（回数：16 回）		後期： 時間（回数： 回）		授業時数	64 時間
教材 教具	二級自動車シャシ＜日本自動車整備振興会＞						
担当者の 実務 経験	自動車ディーラーにて自動車整備						
【学修内容】 科目の狙い（目的） 自動車シャシにおける各構成部品の名称をはじめ構造及び性能について、正しく理解する。状況に応じ カット・モデルや各種サンプルなどを持ち込み、より具体的に説明する。							
【授業計画】 コマシラバス（前 期）				コマシラバス（後 期）			
1	総論 自動車の発達	1					
2	自動車の性能 性能曲線	2					
3	走行性能 関連公式	3					
4	動力伝達装置 MT クラッチ	4					
5	オートマティック TM	5					
6	作動制限型ディファレンシャル	6					
7	インタ・アクスル・ディファレンシャル	7					
8	動力伝達装置まとめ 前期中間試験	8					
9	アクスル及びサスペンション	9					
10	エア・スプリング	10					
11	ステアリング装置	11					
12	旋回性能、コーナリング・フォース	12					
13	ラック・ピニオン型電子制御式	13					
14	電動式パワー・ステアリング	14					
15	タイヤ及びホイール・アライメント	15					
16	まとめ 前期末試験	16					
授業方法 (授業の進め方)	教科書を中心に BIG PAD を使用し、講義形式で行う。前回の復習からはじまり 本時の目標 及び本時のまとめへと展開する。練習問題等の提出により理解を深める。						
到達目標	自動車シャシにおける各構成部品の名称 及び構造・性能について、二級自動車整備士レベルへの到達を目標とする。						
成績評価の 方法と基準	中間・期末考査において テスト：80% 出席率：10% 授業態度：10%以上 3 項目を合計し、100 点法で算出のうえ 60 点以上を認定とする。						
授業時間以外に 必要な学修	・自宅学習により当該科目の予習・復習を心掛ける。 ・課題やレポート等の提出は提出期日を厳守する。						
履修に当たって の留意点	授業態度点は、授業中の私語や居眠り、机上 整理や言葉遣い、積極的に取り組む姿勢など素素の行動を評価するものである。 また、出席数は一種養成施設指定校としての基準を満たす必要がある。						

【令和7年度シラバス】

岡山科学技術専門学校

学科名 (二級自動車工学科 2 年)

※授業の1単位時間は45分とする

科目名	自動車工学 電気・電子理論	英文名	Automotive Engineering (Electricity & Electronic Theory)				2-7
担当者	永岡 淳	実務経験 の有無	有	選択 必修	必修	科目 区分	専門科目・講義
開講期	前期	前期：2 時間（回数：16 回）	後期： 時間（回数： 回）	授業時数		32 時間	
教材 教具	二級ガソリン自動車 エンジン編＜日本自動車整備振興会連合会＞ 二級自動車シャシ＜日本自動車整備振興会連合会＞						
担当者 の実務 経験	自動車ディーラーにて自動車整備						
【学修内容】科目の狙い（目的） 1 学年次の学習内容をベースに、電気の基礎から自動車の各種電気装置について、より具体的に学習する。さらに新機構も含め電子制御装置や各構成部品の名称及び構造や性能・作動を正しく理解する。							
【授業計画】 コマシラバス（前 期）			コマシラバス（後 期）				
1	復習 電子 静電気 電流 電圧など	1					
2	半導体の種類及び働き	2					
3	バッテリーの充放電 電解液の温度と比重の関係など	3					
4	始動装置（スタータ）の構造や作動及び出力特性	4					
5	減速機構及び緩衝装置など	5					
6	充電装置（オルタネータ）の構造や作動	6					
7	充電装置 三相交流及び整流など	7					
8	充電装置まとめ 前期中間試験	8					
9	充電装置の回路図の見方	9					
10	エンジン点火装置 高電圧発生の原理及びスパーク・プラグ	10					
11	電子制御装置の概要（システム回路）	11					
12	アクチュエータ及び ECU による制御	12					
13	計器及び各種警報装置の作動	13					
14	空調システム（エア・コンデショナ）について	14					
15	安全装置 SRS エア・バッグ シート・ベルトなど	15					
16	空調及び安全装置まとめ 前期末試験	16					
授業方法 （授業の進め方）	教科書を中心に BIG PAD を使用し、講義形式で行う。基本的には前回の復習からはじまり 本時の（狙い）及び本時のまとめへと展開する。また練習問題や課題プリントを取り入れ、より理解を深めるよう努める。						
到達目標	二級自動車整備士の技能登録試験 合格レベルを到達目標とする。						
成績評価の 方法と基準	中間・期末考查において テスト：80％ 出席率：10％ 授業態度：10％以上 3 項目を合計し 100 点法で算出し、60 点以上を認定とする。						
授業時間以外に 必要な学修	・ 自宅学習により当該科目の予習・復習を心掛ける。 ・ 課題やレポート等の提出は提出期日を厳守する。						
履修に当たって の留意点	授業態度点は、授業中の私語や居眠り、机上 整理や言葉遣い、積極的に取り組む姿勢など平素の行動を評価するものである。 また、出席数は一種養成施設指定校としての基準を満たす必要がある。						

【令和7年度シラバス】

岡山科学技術専門学校

学科名 (二級自動車工学科 2 年)

※授業の1単位時間は45分とする

科目名	自動車整備 エンジン・故障探求（ガソリン）	英文名	Automobile Maintenance (Gasorin)				2-8
担当者	小川 栄二	実務経験の有無	有	選択必修	必修	科目区分	専門科目・講義
開講期	後期	前期： 時間（回数： 回）	後期：2 時間（回数：16 回）			授業時数	32 時間
教材 教具	二級ガソリン自動車 エンジン編＜日本自動車整備振興会連合会＞						
担当者の 実務 経験	自動車ディーラーにて自動車整備						
【学修内容】 科目の狙い（目的） エンジン整備の各項目における分解・点検・組付け方法や故障探求の方法など、より具体的に説明し良・否の判定 さらに整備の方法について、正しく理解する。							
【授業計画】 コマシラバス（前 期）			コマシラバス（後 期）				
1			1	エンジンの点検・整備 基本点検の説明			
2			2	エンジンの三要素			
3			3	バルブ機構 点検・整備			
4			4	点火装置 点検・整備			
5			5	冷却装置・潤滑装置 点検・整備			
6			6	吸排気装置点検・整備			
7			7	燃料装置点検・整備			
8			8	後期中間試験			
9			9	故障原因探求 故障診断の進め方の説明			
10			10	エンジンの点検・整備 自己診断システムの点検 1			
11			11	スキャンツール OBD の概要			
12			12	エンジンの点検・整備 自己診断システムの点検 2			
13			13	ダイアグノーシスコード データモニタ			
14			14	アクティブテスト 作業サポート			
15			15	故障原因探求フローチャート			
16			16	学年末試験			
授業方法 （授業の進め方）	教科書を中心に BIG PAD を使用し、講義形式で行う。基本的には前回の復習からはじまり 本時の（狙い）及び本時のまとめへと展開する。また練習問題や課題プリントを取り入れ、より理解を深めるよう努める。						
到達目標	二級自動車整備士の技能登録試験 合格レベルへの到達を目標とする。						
成績評価の方法と基準	中間・期末考査において テスト：80% 出席率：10% 授業態度：10%以上 3 項目を合計し、100 点法で算出のうえ 60 点以上を認定とする。						
授業時間以外に必要な学修	・自宅学習により当該科目の予習・復習を心掛ける。 ・課題やレポート等の提出は提出期日を厳守する。						
履修に当たっての留意点	授業態度点は、授業中の私語や居眠り、机上 整理や言葉遣い、積極的に取り組む姿勢など平素の行動を評価するものである。 また、出席数は一種養成施設指定校としての基準を満たす必要がある。						

【令和7年度シラバス】

岡山科学技術専門学校

学科名 (二級自動車工学科 2 年)

※授業の1単位時間は45分とする

科目名	自動車整備 エンジン・故障探求 (ジーゼル)	英文名	Automobile Maintenance (Diesel)				2-9
担当者	小川 栄二	実務経験の有無	有	選択必修	必修	科目区分	専門科目・講義
開講期	後期	前期： 時間 (回数： 回)	後期：2 時間 (回数：16 回)			授業時数	32 時間
教材 教具	二級ジーゼル自動車 エンジン編<日本自動車整備振興会連合会>						
担当者の実務 経験	自動車ディーラーにて自動車整備						
【学修内容】 科目の狙い (目的) エンジン整備の各項目における分解・点検・組付け方法や故障探求の方法など、より具体的に説明し良否の判定 さらに整備の方法について、正しく理解する。							
【授業計画】 コマシラバス (前 期)				コマシラバス (後 期)			
1			1	エンジンの点検・整備 基本点検の説明			
2			2	エンジン本体の点検・整備			
3			3	バルブ機構 点検・整備			
4			4	燃料噴射装置 点検・整備			
5			5	冷却装置・潤滑装置 点検・整備			
6			6	吸排気装置 点検・整備			
7			7	予熱装置 点検・整備			
8			8	後期中間試験			
9			9	故障原因探求 故障診断の進め方の説明			
10			10	エンジンの点検・整備 自己診断システムの点検 1			
11			11	スキャンツール OBD の概要			
12			12	エンジンの点検・整備 自己診断システムの点検 2			
13			13	ダイアグノーシスコード データモニタ			
14			14	アクティブテスト 作業サポート			
15			15	故障原因探求フローチャート			
16			16	学年末試験			
授業方法 (授業の進め方)	教科書を中心に BIG PAD を使用し、講義形式で行う。基本的には前回の復習からはじまり 本時の (狙い) 及び本時のまとめへと展開する。 また練習問題や課題プリントを取り入れ、より理解を深めるよう努める。						
到達目標	二級自動車整備士の技能登録試験 合格レベルへの到達を目標とする。						
成績評価の方法と基準	中間・期末考查において テスト：80% 出席率：10% 授業態度：10%以上 3 項目を合計し、100 点法で算出のうえ 60 点以上を認定とする。						
授業時間以外に必要な学修	・ 自宅学習により当該科目の予習・復習を心掛ける。 ・ 課題やレポート等の提出は提出期日を厳守する。						
履修に当たっての留意点	授業態度点は、授業中の私語や居眠り、机上 整理や言葉遣い、積極的に取り組む姿勢など平素の行動を評価するものである。 また、出席数は一種養成施設指定校としての基準を満たす必要がある。						

【令和7年度シラバス】

岡山科学技術専門学校

学科名 (二級自動車工学科 2 年)

※授業の1単位時間は45分とする

科目名	自動車整備 シャシ・故障 探求		英文名	Automobile Maintenance (Chassis)				2-10
担当者	小川 栄二		実務経験 の有無	有	選択 必修	必修	科目 区分	専門科目・講義
開講期	後期	前期： 時間（回数： 回）		後期：2 時間（回数：16 回）			授業時数	32 時間
教材 教具	二級自動車シャシ＜日本自動車整備振興会＞							
担当者 の実務 経験	自動車ディーラーにて自動車整備							
【学修内容】科目の狙い（目的） シャシ整備の各項目における分解・点検・組付け方法など具体的に説明し、故障探求や良否の判定及び整備の方法について、正しく理解する。								
【授業計画】 コマシラバス（前 期）				コマシラバス（後 期）				
1				1	ホイール・アライメント タイヤ			
2				2	大型車のタイヤ&ホイール トルク管理等			
3				3	ブレーキ 構造・性能 ABS 及び TCR			
4				4	その他のブレーキ エア・油圧式 フル・エア式他			
5				5	補助ブレーキ EX ブレーキ及びリターダ			
6				6	ブレーキの整備 保守に関する点検・整備			
7				7	フレーム及びボデー			
8				8	後期中間試験			
9				9	AT 車上山点検及び油圧試験 ストール・テスト他			
10				10	アクスル&サスペンション 点検・調整等			
11				11	ステアリング装置 油圧点検及び保守に関する点検・整備			
12				12	フレーム及びボデーに関する整備			
13				13	シャシ全般及び荷重計算について			
14				14	自動車シャシに関する潤滑及び潤滑剤について			
15				15	自動車シャシに関する故障探求の進め方			
16				16	学年末試験			
授業方法 (授業の進め方)		教科書を中心に BIG PAD を使用し、講義形式で行う。基本的には前回の復習からはじまり 本時の目標 及び本時のまとめへと展開する。状況に応じ練習問題や課題プリントを取り入れ、より理解を深めるよう努める。						
到達目標		当該科目において、二級自動車整備士の技能登録試験 合格レベルへの到達を目標とする。						
成績評価の方法と基準		中間・期末考査において テスト：80％ 出席率：10％ 授業態度：10％以上 3 項目を合計し、100 点法で算出のうえ 60 点以上を認定とする。						
授業時間以外に必要な学修		・ 自宅学習により当該科目の予習・復習を心掛ける。 ・ 課題やレポート等の提出は提出期日を厳守する。						
履修に当たっての留意点		授業態度点は、授業中の私語や居眠り、机上 整理や言葉遣い、積極的に取り組む姿勢など平素の行動を評価するものである。 また、出席数は一種養成施設指定校としての基準を満たす必要がある。						

科目名	自動車整備 電装・故障探求	英文名	Automobile Maintenance (Electrical Trouble shooting)				2-11
担当者	永岡 淳	実務経験 の有無	有	選択 必修	必修	科目 区分	専門科目・講義
開講期	後期	前期： 時間（回数：回）	後期：2時間（回数：16回）			授業時数	32時間
教材 教具	二級ガソリン自動車 エンジン編＜日本自動車整備振興会連合会＞ 二級自動車シャシ＜日本自動車整備振興会連合会＞						
担当者 の実務 経験	自動車ディーラーにて自動車整備						
【学修内容】科目の狙い（目的） 1 学年次の学習内容をもとに 自動車の電装品について、各システムの点検や整備の方法及び故障探求の方法など正しく理解し、より具体的に習得する。							
【授業計画】 コマシラバス（前 期）			コマシラバス（後 期）				
1			1	始動装置 システム点検			
2			2	" 単体点検 良否判定及び整備			
3			3	充電装置 システム点検			
4			4	" 単体点検 良否判定及び整備			
5			5	エンジン点火装置 システム点検			
6			6	" 単体点検 良否判定及び整備			
7			7	電子制御装置 系統別故障診断の方法			
8			8	後期中間試験			
9			9	電子制御装置 単体点検 自己診断機能			
10			10	計器及び警報装置 断線警告機能他			
11			11	空調システム エア・コンディショナ			
12			12	" エア・ミックス方式 冷凍サイクル			
13			13	" エアコン・ガス回収及び充填方法			
14			14	安全装置 SRS エア・バッグ シート・ベルト			
15			15	その他 カー・ナビゲーションシステム			
16			16	学年末試験			
授業方法 (授業の進め方)		教科書を中心に BIG PAD を使用し、講義形式で行う。基本的には前回の復習からはじまり 本時の（狙い）及び本時のまとめへと展開する。また練習問題や課題プリントを取り入れ、より理解を深めるよう努める。					
到達目標		二級自動車整備士の技能登録試験 合格レベルを到達目標とする。					
成績評価の方法と基準		中間・期末考查において テスト：80% 出席率：10% 授業態度：10%以上3項目を合計し100点法で算出のうえ60点以上を認定とする。					
授業時間以外に必要な学修		・自宅学習により当該科目の予習・復習を心掛ける。 ・課題やレポート等の提出は提出期日を厳守する。					
履修に当たっての留意点		授業態度点は、授業中の私語や居眠り、机上 整理や言葉遣い、積極的に取り組む姿勢など平素の行動を評価するものである。 また、出席数は一種養成施設指定校としての基準を満たす必要がある。					

科目名	自動車工学 力学、数学、図面 燃料、潤滑剤、材料		英文名	Automotive Engineering (Dynamics Mathematics Drawing Fuel&Luburicant Material)				2-12
担当者	小川 栄二		実務経験 の有無	有	選択 必修	必修	科目 区分	専門科目・講義
開講期	通年	前期： 時間（回数： 回）		後期：2 時間（回数：16 回）			授業時数	32 時間
教材 教具	自動車整備士計算の基礎と問題＜公論出版＞ 機械製図ワークノート＜実教出版＞ 二級自動車シャシ＜日本自動車整備振興会連合会＞ 二級ガソリン自動車 エンジン編＜日本自動車整備振興会連合会＞ 二級ジーゼル自動車エンジン編＜日本自動車整備振興会連合会＞							
担当者 の実務 経験	自動車ディーラーにて自動車整備							
【学修内容】 科目の狙い（目的） 力学・数学における基本的な考え方を習得することを目的としている。歯車装置、自動車走行性能 及び荷重計算、また電気や圧力の計算問題など公式をもとに正しく理解し解決する能力を身につける。								
【授業計画】 コマシラバス（前 期）				コマシラバス（後 期）				
1				1	荷重（テコの原理） 計算			
2				2	圧力 パスカルの原理 計算			
3				3	変速比 計算			
4				4	出力（仕事率） 計算			
5				5	トルク 駆動トルク 駆動力 計算			
6				6	速度 車速 計算			
7				7	トルコン性能 計算			
8				8	後期中間試験			
9				9	走行抵抗 計算			
10				10	排気量 圧縮比 平均ピストン速度 計算			
11				11	オームの法則 計算			
12				12	合成抵抗 計算			
13				13	電力 計算			
14				14	計算問題まとめ 1			
15				15	計算問題まとめ 2			
16				16	学年末試験			
授業方法 （授業の進め方）		教科書を中心に BIG PAD を使用し、講義形式で行う。項目ごとに前回の復習からはじまり 本時の目標 及び本時のまとめへと展開する。状況に応じ練習問題や課題プリントを取り入れ、より理解を深めるよう努める。						
到達目標		各項目における基礎・基本が理解できていること。 単元終了時に小テストにより 70%以上を目指す。特に計算問題については、二級自動車整備士合格レベルへの到達を目標とする。						
成績評価の 方法と基準		中間・期末考査において テスト：80％ 出席率：10％ 授業態度：10％以上 3 項目を合計し、100 点法で算出のうえ 60 点以上を認定とする。						
授業時間以外に 必要な学修		・ 自宅学習により当該科目の予習・復習を心掛ける。 ・ 課題やレポート等の提出は提出期日を厳守する。						
履修に当たって の留意点		授業態度点は、授業中の私語や居眠り、机上 整理や言葉遣い、積極的に取り組む姿勢など平素の行動を評価するものである。 また、出席数は一種養成施設指定校としての基準を満たす必要がある。						

【令和7年度シラバス】

岡山科学技術専門学校

学科名 (二級自動車工学科 2 年)

※授業の1単位時間は45分とする

科目名	機器の構造取扱 検査機器	英文名	Equipment structure handling Inspection equipment				2-13
担当者	中崎 太	実務経験 の有無	有	選択 必修	必修	科目 区分	専門科目・講義
開講期	前期	前期：2 時間（回数：16 回）	後期： 時間（回数： 回）			授業時数	32 時間
教材 教具	自動車検査用機械器具の構造と取扱＜日本自動車機械工具協会＞						
担当者 の実務 経験	自動車ディーラーにて自動車整備						
【学修内容】科目の狙い（目的） 自動車検査用の機械器具について、関係法令をもとに機器の構造及び取扱い方法から保守管理まで正しく理解する。							
【授業計画】 コマシラバス（前 期）			コマシラバス（後 期）				
1	自動車検査用機械器具に関する法令		1				
2	サイド・スリップテスト		2				
3	ブレーキ・テスト		3				
4	速度計試験機		4				
5	前照灯試験機（ヘッド・ライト・テスト）		5				
6	音量計 騒音計		6				
7	前期中間試験		7				
8	一酸化炭素及び炭化水素測定器		8				
9	黒煙測定器及びオパシメータ		9				
10	サイド・スリップテスト 復習（測定方法）		10				
11	ブレーキ・テスト 復習（測定方法）		11				
12	速度計試験機 復習（測定方法）		12				
13	前照灯試験機 音量計 騒音計 復習（測定方法）		13				
14	一酸化炭素及び炭化水素測定器 復習（測定方法）		14				
15	黒煙測定器及びオパシメータ 復習（測定方法）		15				
16	検査用機器のまとめ 科目終了テスト		16				
授業方法 （授業の進め方）	教科書を中心に BIG PAD を使用し、講義形式で行う。基本的には前回の復習からはじまり 本時の（狙い）及び本時のまとめへと展開する。また練習問題や課題プリントを取り入れ、より理解を深めるよう努める。						
到達目標	二級自動車整備士の技能登録試験 合格レベルへの到達を目標とする。						
成績評価の 方法と基準	中間及び前期期末試験において テスト：80％ 出席率：10％ 授業態度：10％以上 3 項目を合計し、100 点法で算出のうえ 60 点以上を認定とする。						
授業時間以外に 必要な学修	・ 自宅学習により当該科目の予習・復習を心掛ける。 ・ 課題やレポート等の提出は提出期日を厳守する。						
履修に当たって の留意点	授業態度点は、授業中の私語や居眠り、机上 整理や言葉遣い、積極的に取り組む姿勢など平素の行動を評価するものである。 また、出席数は一種養成施設指定校としての基準を満たす必要がある。						

【令和7年度シラバス】

岡山科学技術専門学校

学科名 (二級自動車工学科 2 年)

※授業の1単位時間は45分とする

科目名	自動車検査		英文名	Automobile inspection				2-14
担当者	永岡 淳		実務経験の有無	有	選択必修	必修	科目区分	専門科目・講義
開講期	前期	前期：2 時間（回数：16 回）		後期： 時間（回数： 回）			授業時数	32 時間
教材 教具	自動車整備士の法令教本＜公論出版＞ 自動車整備士 2 級ガソリン 練習問題集＜公論出版＞ 自動車整備士 2 級ジーゼル 練習問題集＜公論出版＞							
担当者の 実務 経験	自動車ディーラーにて自動車整備							
【学修内容】科目の狙い（目的） 自動車の登録制度や保安基準、点検・整備及び検査、さらに自動車の整備事業について関係法令を熟知し正しく理解する。								
【授業計画】 コマシラバス（前 期）				コマシラバス（後 期）				
1	関係法令の概要説明			1				
2	自動車整備士技能検定制度のあらまし			2				
3	自動車に対する法規制の概要			3				
4	道路運送車両〈抜粋〉			4				
5	道路運送車両法			5				
6	自動車の登録			6				
7	道路運送車両の保安基準			7				
8	まとめ 前期中間試験			8				
9	道路運送車両の点検及び整備			9				
10	道路運送車両の検査等			10				
11	自動車整備士の技能検定			11				
12	自動車の整備事業			12				
13	道路運送車両法施行規則の別表			13				
14	自動車点検基準			14				
15	日常点検基準と定期点検基準			15				
16	点検基準まとめ 前期末試験			16				
授業方法 （授業の進め方）		教科書を中心に BIG PAD を使用し、講義形式で行う。項目ごとに前回の復習からはじまり 本時の目標 及び本時のまとめへと展開する。状況に応じ練習問題や課題プリントを取り入れ、より理解を深めるよう努める。						
到達目標		各項目における基礎・基本が理解できていること。 単元終了時に小テストにより 70%以上を目指す。特に計算問題については、二級自動車整備士合格レベルを到目標とする。						
成績評価の方法と基準		中間・期末考查において テスト：80% 出席率：10% 授業態度：10%以上 3 項目を合計し、100 点法で算出のうえ 60 点以上を認定とする。						
授業時間以外に必要な学修		・ 自宅学習により当該科目の予習・復習を心掛ける。 ・ 課題やレポート等の提出は提出期日を厳守する。						
履修に当たっての留意点		授業態度点は、授業中の私語や居眠り、机上 整理や言葉遣い、積極的に取り組む姿勢など平素の行動を評価するものである。 また、出席数は一種養成施設指定校としての基準を満たす必要がある。						

科目名	自動車法規 自動車整備に関する法規		英文名	Laws®ulations Automobile maintenance				2-15	
担当者	永岡 淳		実務経験 の有無	有	選択 必修	必修	科目 区分	専門科目・講義	
開講期	後期	前期： 時間（回数： 回）		後期：2 時間（回数：16 回）			授業時数	32 時間	
教材 教具	自動車整備士の法令教本＜公論出版＞ 自動車整備士 2 級ガソリン 練習問題集＜公論出版＞ 自動車整備士 2 級ジーゼル 練習問題集＜公論出版＞								
担当者 の実務 経験	自動車ディーラーにて自動車整備								
【学修内容】 科目の狙い（目的） 動車の登録制度や保安基準、点検・整備及び検査、さらに自動車の整備事業について関係法令を熟知し正しく理解する。									
【授業計画】 コマシラバス（前 期）					コマシラバス（後 期）				
1				1	道路運送車両法の保安基準				
2				2	総則・概要				
3				3	自動車の保安基準				
4				4	①第 1 条～10 条				
5				5	②第 11 条～20 条				
6				6	③第 12 条～20 条				
7				7	④第 21 条～30 条				
8				8	保安基準まとめ 後期中間考査				
9				9	⑤第 31 条～40 条				
10				10	⑥第 41 条～53 条				
11				11	自動車NOx・PM法				
12				12	検査機器について				
13				13	2 級自動車整備士国家試験受験対応授業①				
14				14	2 級自動車整備士国家試験受験対応授業②				
15				15	2 級自動車整備士国家試験受験対応授業③				
16				16	保安基準まとめ 後期期末考査				
授業方法 (授業の進め方)		教科書を中心に BIG PAD を使用し、講義形式で行う。項目ごとに前回の復習からはじまり 本時の目標 及び本時のまとめへと展開する。状況に応じ練習問題や課題プリントを取り入れ、より理解を深めるよう努める。							
到達目標		各項目における基礎・基本が理解できていること。 単元終了時に小テストにより 70%以上を目指す。二級自動車整備士合格レベルを到達目標とする。							
成績評価の 方法と基準		中間・期末考査において テスト：80% 出席率：10%授業態度：10%以上 3 項目を合計し、100 点法で算出のうえ 60 点以上を認定とする。							
授業時間以外に 必要な学修		・ 自宅学習により当該科目の予習・復習を心掛ける。 ・ 課題やレポート等の提出は提出期日を厳守する。							
履修に当たって の留意点		授業態度点は、授業中の私語や居眠り、机上 整理や言葉遣い、積極的に取り組む姿勢など平素の行動を評価するものである。 また、出席数は一種養成施設指定校としての基準を満たす必要がある。							